

azbil

6 | 山武グループ PR 誌
June 2008



特集 エコデザイン

azbil
Field

- 株式会社テヨン建設
- 柏市役所 保健福祉部 高齢者支援課

azbil
mind

ライフオートメーションが実現する世界

未来のことを考えると、
デザインはこうなります。

エコ デザイン

ECO DESIGN

Design for a Sustainable Future.

人とモノの接点には、いつもデザインがある。私たちがモノに求める機能を、わかりやすく、無駄なく、美しく表現して形にするのがデザインだ。しかしデザインとは、人のためだけのものではないはず。モノがどこでどのように作られ、どこに捨てられるか。それを真剣に考えたとき、新しいデザインの意味が見えてきた。デザインは、この地球の未来のために。

今すぐほしい、エコデザイングッズ。



● Sustain Caturly
デザートスプーン（手前）とコーヒースプーン（奥）
塗料を使わず、ステンレスの表面を覆う酸化皮膜の性質を利用して発色させたスプーン。実際には着色されていないため、はげたり変色したりすることがなく、口に入れても安心。



● Studio Re'Light
再生ガラスのオブジェ／透明
有害物が含まれるため、これまでは廃棄物として埋め立てられていた蛍光灯や水銀灯を無害化処理して作った一品。ペーパーウェイトやデスクのアクセントとしてどうぞ。



● レコード・ボウル／ラウンド
中古LPレコードをリユースしてボウルにしたもの。LPのラベル部分のみを抜いて、コースターにした商品もある。食卓でも音楽と一緒にいたい人に。



● Bamboo tableware
竹トレイ円（50枚セット）
育成サイクルが非常に早く、2～3年で資材として活用できる竹で作ったお皿。紙皿に比べて丈夫で、竹の繊維が美しい。



● SECCO Qwerty
マグネットストラップ
工業廃棄物を材料としたフィンランド生まれのリサイクル・ブランドがデザイン。毎日使っているキーボードが、かわいいアクセサリーに変身！



● Resource Revival
フォト・キーチェーン
自転車や車の廃材を雑貨やオブジェに再生する、ポートランドの新鋭ブランドの商品。ハードな素材感が男らしくてステキ。

エコ デザイン

ECO DESIGN
Design for a Sustainable Future.

モノ選びの基準に、エコ。

エコデザインとは、環境効率を高め、環境負荷の軽減に配慮した製品を作ること。魅力的なエコデザイン製品が数多く生まれている。

モノのルーツを想像してみる

私たちは、毎日モノを買って暮らしている。買い物は、選択の連続だ。あれでもなく、これでもなく、それを選んだのは、きつと何か理由があったはず。では、モノを選ぶ基準って何だろう？ 価格が安いから？ 機能が魅力的だから？ 見た目がカワイイから？ それとも、ただなんとなく？ もちろん、どんな理由で選んだってかまわない。でも、新しい時代を生きる私たちには、もう一つ新しい基準があってもいい。それは、「エコ」かどうか。

モノを作るときには、必ず資源が必要となる。いま手にしているノートも、もともとは1本の木だったはず。木材がパルプとなり、やがてノートとなって売り場に並べられ、私たちの手元にある。しかし、その過程の多くを、私たちは知らない。木は、どここの大地に根を張っていたのか。どんな工程を経て伐採され、加工されるのか。木々が無計画に伐採され、地域の森林を破壊していないか。加工の工程で、有害物質が使われていないか。ノート一冊を買うとき、私たちはそこまで想像が及ばないのが普通だ。

しかし、モノを買うことは、そのモノを認め、支持することでもある。モノが売れば再び投資され、生産は拡大していく。私たちは毎日の買い物を通じて、知らず知らずのうちに環境破壊に加担していないだろうか。

製品ライフサイクルの全工程で環境負荷を抑える

そこで注目されているのが、エコデザインという考え方である。エコデザインとは、製品の企画や設計段階から、資源やエネルギー調達、部品材料調達、生産加工、物流、消費、回収、再利用、廃棄まで、製品ライフサイクルの全工程を通じて、地球環境に対する負荷を最小限に留める試みのこと。バブル経済崩壊直前の1989年、すでに進歩的なデザイナーの間では「エコ」が大きなキーワードとなっていた。日本におけるエコデザインの第一人者、益田文和氏はエコデザインに注目したきっかけをこう語る。

「当時私は、インダストリアル・デザイン

ナーとしてさまざまな工業製品のデザインを手がけていました。しかしある日、私が苦心してデザインした冷蔵庫が、廃棄物として川のほとりに捨てられているのを見かけました。とてもショックキングな光景でした。自分が環境破壊に加担しているというイメージに苛まれました」

益田氏は、長く使い続けられるシンプルで機能的なデザインの追求と、次々と新しい製品を世に送り出さなければならぬないメーカーの意向との間で悩んだ。そして、オランダやデンマークなどエコ先進国のデザイナーたちと協力し、エコデザインという新しいデザインの考え方を模索した。世界的な機運の高まりから、日本でも1997年頃から産官学共同で本格的な取り組みが始まった。以後10年で、日本は世界でも有数のエコデザイン国となった。

現在、エコデザインの考え方は広く一般に浸透している。消費電力の少ない家庭用電気製品や、生分解性プラスチックを用いた製品などの研究開発が進められ、消費者にも支持されている。2007年に開催されたエコプロダクツ展に16万人が訪れたことから、世間の関心の高さを伺うことができる。各々の製品におけるエコデザイン化は、今後ますます推し進められていくだろう。

しかし、各製品のエコデザインだけでは解決できない大きな問題もまた浮上ってきている。それは、今後のデザインを占うテーマでもある。

Profile

益田文和【ますだ・ふみかず】
日本におけるエコデザインの提唱者である益田文和氏は、インダストリアルデザイナーとして企業の商品開発に長く携わってきた。山武との付き合いも10年以上に渡り、1997年にグッドデザイン賞を受賞した圧力センサー「Bravolight™（ブラボーライト）」も益田氏の手によるもの。現在は、自身のデザイン制作会社である株式会社オープンハウス代表取締役の他、エコデザイン研究所の代表や東京造形大学デザイン学科の教授を務める。



e-column

エコデザインのあくなき追求 「風で織るタオル」の池内タオルが考えていること。

100%風力発電による電力で作られた「風で織るタオル」が注目を集めている。かの小泉前首相も施政方針演説でエールを送ったという、愛媛県今治市の池内タオルが取り組むエコデザインとは。



池内タオル株式会社

世界最大のタオル産地といわれる愛媛県今治市のタオルメーカー。ライセンスブランドタオルの生産を手がけながら、1999年にオリジナルブランドを発表。繊維業界では珍しいISO9001とISO14001の取得など、環境品質が世界で高く評価されている。



グリーン電力証書システム
自然エネルギーにより発電された電気の環境付加価値を「グリーン電力証書」というかたちで取引し、契約している企業や団体が、発電電力量相当分の環境改善を行ったと見なされる仕組み。池内タオルの電力は、秋田県能代市にある風力発電所の電力で賄われている。

また特徴的なのは、グリーン電力証書システムにより、自社内で使用する電力の100%を風力発電エネルギーで賄っていること。「風で織るタオル」の愛称は、ここから生まれた。グリーン電力証書を

「環境を感覚で語らず、数値で示すこと」。ここには、池内タオルのストイックな企業姿勢が明確に表れている。エコがブームとなり、実質が伴わないままエコを語る製品も多い中で、池内タオルのプライベートブランド「風で織るタオル」は、タオル生産のあらゆる工程において環境負荷の軽減を極限まで推し進めている。その試みは、現在進行形だ。

まず、素材はオーガニックコットン。染色は、ローインパクトダイと呼ばれる環境負荷の低いデンマークの染料を使用。あえて世界一排水規制が厳しいといわれる瀬戸内海に染色工場を設立し、最高品質の浄水設備を備えて染色を行っている。

また特徴的なのは、グリーン電力証書システムにより、自社内で使用する電力の100%を風力発電エネルギーで賄っていること。「風で織るタオル」の愛称は、ここから生まれた。グリーン電力証書を

これら世界標準の環境品質は、世界の市場に対して大きなアピールとなった。2002年に開催されたアメリカ最大のホームテキスタイルショー「New York Home Textiles Show 2002 spring」にてBest New Products Awardに選定され、現在もニューヨークの有名セレクトショップなどに置かれている。

タオルは毎日使うモノだから、耐久性が重要。安易に買い替えを促すような製品は、エコデザインとはいえない。タオルとしての品質を高めながら環境負荷を軽減させていく試みは、まだまだ続く。

「サービサイジング」とは

企業が取り組む
エコロジカルなサービスモデル

生産と消費の拡大に抛らず、企業を成長させている新しい試みとして注目されているのが、「サービサイジング」である。

「サービサイジング」とは、生産者が製品を販売する代わりに、製品がもたらすサービスを販売するビジネスモデルのこと。例えば、電機メーカーが事業者向けに照明機能を提供するサービスがある。ここではランプは販売されず、照明というサービスが提供される。ランプはあくまでメーカーが所有し、使用済みとなったランプは回収してリサイクルなどの処理を行う。メーカーは製品の管理や適切な処理をしやすく、利用者もメンテナンスまで一括して任せられるので双方にとってメリットがある。

「サービサイジング」は、これまで製品を販売することで利益を得てきた企業にとっては、大きなビジネスモデルの転換を迫られる発想だ。しかし近年は、ビジネス拡大の模索やアウトソーシング意識の高まり、エコへの関心の高さから、積極的に検討されるようになってきた。エコ時代における企業発展のヒントは、ここにあるのかもしれない。



Magnoのサステイナブル

地元の木材を使って作られたMagnoの文房具類。木々のぬくもりが、使う人に安心感を与える。



未来の地点から 辿るべき道を想像する

小さな会社を立ち上げ、地元の人々を雇ってものづくりの技能を教えた。ジャワ黒檀やマホガニーなど地元の木材を最小限に使い、文房具などの製品を手作業で製作。生まれた製品は、環境負荷が低く、ただでなく、どれも見た目に愛らしく、思わず手にとって使ってみたくなる。売上の数%は植林活動に回され、再び資源を再生する。地域に仕事を提供し、持続可能な社会を作る。これが、サステイナブルデザインの実践といえるだろう。



あり、未来は前にあるという漠然としたイメージがあるが、実際に参照できるのは過去だけ。つまり、私たちの面前に広がっているのは過去であり、私たちは後ろ歩きをしながら未来へと向かっている。しかし、過去だけを見ていては取り返しのつかない状況になってしまうのが

環境問題だ。「ですから、自分を一度未来に投げてみて、辿るべき道を想定しながら現在に必要な対策を考えていく『バックキャストイング』という考え方が、今後ますます重要になってくると思います」と益田氏は言う。

豊かな未来の地点に立つて現在を照らし出したとき、そこにはサステイナブルデザインという新しい発想が生まれてくるはずだ。

エコデザインを進めると 環境負荷が上がる!?

各々の製品でエコデザインが進み、環境負荷はどんどん下がってきた。するとどうなったか。エアコンを例に考えてみよう。エコデザイン化が進み、エアコンの消費電力が極限まで抑えられたことによって、私たちは夜通しエアコンを付けるようになった。今や、各部屋に一台ずつエアコンがあることも珍しくない。「製品単体でエコデザインを推し進めた結果、需要は拡大し、全体の環境負荷はむしろ増えてしまっています。ここに、エコデザインの限界があるのです」と益田氏は語る。

エアコンの環境負荷を下げるよりも、エアコンを使わずとも快適に暮らせる環境を作る方が、環境負荷は少ない。例えばそれは、風通しの良い設計の家を建てること。このような発想を、サステイナブルデザインという。

サステイナブルデザインとは、持続可能な社会を実現するためのデザインのこと。消費を促す価値基準そのものを見直し、持続可能な新しい基準を作っていくグランドデザインである。製品単体だけではなく、その製品が使われる背景や製品の必要性も含めて、デザインをしていくことだ。

森林伐採を食い止め 循環型社会を実現

サステイナブルデザインは、地域の豊かな自然を享受し、自然と共に生きる人々こそ切実な問題として捉えている。インドネシアの豊かな森林資源と共に生きるインドネシア人デザイナー、シンギー・カルトノ氏もその一人だ。シンギー氏は現在、間伐材を利用して文房具などを作る「Magno」というブランドを立ち上げ、サステイナブルデザインによるモノづくりを実践している。

益田氏のデザイン制作会社「株式会社オーブンハウス」で扱う製品の中でも、特に人気の高いブランドだ。

現在インドネシアでは、紙の原料となるパルプのチップ用に、大量の木材が無計画に伐採されて輸出されている。森林破壊は続くが、地元住民への還元はゼロに近い。そこでシンギー氏は「一本の成長した木からは、職人が一年働けるだけの素材を取り出すことができる」と訴え、木材という素材の価値に改めて注目することで、現状の問題を解決しようとした。

「Less Wood More Works (小さな木材でも、多くの仕事を)」、これが「Magno」のコンセプトだ。

シンギー氏はまず、素材の調達場所に



用語解説

savic-net FX (ネットワーク BA システム)

あらゆる建物ニーズにフレキシブルに対応。世界標準技術の採用で、他メーカーとの接続も自由自在。Web オペレーションも可能です。

VAV

(Variable Air Volume: 可変風量単一ダクト方式)

空調の吹き出し口から出る温度を一定とし、吹き出し風量を変えることによって、冷暖房機能を調整する空調方式。個別制御がしやすく、搬送動力も減らせるため、省エネルギー。

CAV

(Constant Air Volume: 定風量単一ダクト方式)

吹き出し口から出る風量は一定とし、吹き出す空気の温度を変えることにより、冷暖房能力を調整する空調方式。

氷蓄熱設備

夜間電力を用いて製氷し、それを解かして冷房などに利用する設備のこと。

VAV 用コントローラ Inflex™ VC (インフレックス ヴイシー)

VAV の温度制御・風量制御が可能。通信接続により、VAV 最大／最小風量の一括設定や中央監視での風量監視などが行えます。



海外仕様品

株式会社テヨン建設



所在地: 韓国ソウル特別市
事業内容: 不動産・賃貸および建設業



株式会社テヨン建設
取締役社長
李梓揆 (lee jae kyu) 氏



株式会社テヨン建設
建築本部常務理事
姜承燦 (kang sung chan) 氏



株式会社テヨン建設
建築本部機械次長
朴昌奉 (park chang bong) 氏



株式会社テヨン建設
マネージメント
機械室長
南相厚 (nam sang hwo) 氏

株式会社テヨン建設は近年大きく成長を遂げており、その独創的な経営戦略には韓国国内外から高い評価が寄せられています。

快適な環境が提供されて
いるオフィススペース



中央管理室

であり、ビル建設にあたっての、ひとつの重要なコンセプトでした。」(李梓揆氏)
地上13階・地下5階のテヨンビルディングは建物全てがガラス張りです。そのため日射による影響も大きく、快適と省エネの両立というコンセプトの実現には、空調制御に精通したパートナーが必要だったといえます。そこでパートナーとして選ばれたのが、韓国国内で検察庁や政府記録保存所などの豊富な実績を持つ韓国山武でした。
「韓国山武からは、建物内のスペースの利用目的と構造を理解した上で、もっとも効率よく運用できるプランを提案いただきました。」(姜承燦氏)。
具体的には、執務スペースとして使われる空間は、個別に風量をコントロールするVAV方式を、食堂や講堂などのように多くの人が集まるスペースは、十分な換気量を確保するために定風量のCAV方式の空調を採用しました。また、人が集まることによって発生するCO₂の量をセンサで検出し、濃度に応じて外気を

今後とも山武とは 良い関係、協力的な関係を

今回の新本社ビル計画にあたっては、

取り入れると同時に、室内は一定の温度を維持する外気取入制御も導入しました。加えて、日射の影響により、建物の東側と西側では時間帯によって空調負荷が大きく異なることから、空調機を2台導入。それぞれの環境に合わせた最適な運用ができるシステムとしました。さらなる省エネルギー対策として、低コストな深夜電力を利用可能な氷蓄熱設備を採用しています。これにより冷房に必要なエネルギーの約40%がまかなわれており、夏場の電力需要ピーク時にも余裕をもって対応しています。
これら空調システムや氷蓄熱設備を統合管理しているのが、山武のネットワークBAシステム「Savic-net FX」です。地下1階の中央管理室に統括管理システムを設置し、あらゆる情報が集約されています。

事前に様々なメーカー候補の中から選定を行いました。実際に日本国内のビルの視察を実施し、山武に対しては当初より高く評価し積極的に採用を検討してきたといえます。
「製品やシステムのすばらしさだけではなくありません。施工前の提案力でも感心させられました。山武の迅速なメンテナンス対応は大変素晴らしいですね。実際、小さなエラーが発生した場合でもすぐに対策を立てていただきました。現場のスタッフはもちろん、オーナーにも、そしてビル利用者にも高く評価されています。」(南相厚氏)
「工事中、必要な部品の納期に遅れが生じた際も、山武は最善を尽くして納期を間に合わせてくれました。日本と韓国では国も違い、距離もありますが、誠意を持って対応してくれた工場関係者の方にもお礼を伝えるとともに、これからも変わらず良い関係、協力的な関係を維持していきたいですね。」(朴昌奉氏)



汝矣島公園や漢江が近接する好環境

日本国内で培ってきた経験と実績を、韓国の最先端ビルで実現。建設会社の本社にふさわしい快適で高い業務効率を発揮できる環境を提供、さらに最新の技術による省エネルギーを両立し、オーナー・入居企業に大変満足いただいています。

azbil Field

お客さま紹介

最新の設備とシステムを採用した “建設のプロ”ならではの新本社ビル

環境親和性にも十分配慮して
創業の地「汝矣島」に
新本社ビルを建設

株式会社テヨン建設は建設会社として創業以来、テレビ・ラジオ放送局「SBS」など多くの関連会社からなる「テヨングループ」を形成するまでに成長を続けています。汝矣島はテヨン建設創業の地であり、また、同社の会長も強い愛着を抱いていました。

「現在に至る基盤を築いたこの汝矣島で、もう一度テヨングループを創造しようという思いで、本社移転を決めました。」(李梓揆氏)

汝矣島は、漢江の中州にあたり、国会議事堂をはじめ、韓国証券取引所など、政治・金融の要所であると同時に、汝矣島公園に象徴される景観の素晴らしい特徴です。そのため、建設計画では自然や立地環境に十分配慮し、周辺に調和する建築デザインに配慮しました。また、建設会社の本社ビルとして機能面にもこだわり、快適で高い業務効率を発揮でき、省エネルギーを追求した最新鋭の建物として、2007年5月に竣工しました。

最新の技術とシステムで 快適性と省エネルギーを両立

「本社内の多くのスペースが事務所として機能します。そこで、快適でかつ高い業務効率を発揮できる環境を提供することがまず大切だと考えました。また、CO₂排出量を削減することは企業としての使命



吹き抜け構造で十分な採光を確保



写真はイメージです

緊急時の対応はもちろん、心や健康についての相談が気軽にできる安全センターの緊急通報サービスを導入することで、自治体との連携のもと、24時間、365日、いつでも高齢者に安心と安全をご提供できるようになりました。

azbil
Field
お客さま紹介

少子高齢化により、一人暮らしの高齢者が増加する中、 生命を守り、心の支えにもなる緊急通報システムが 地域の安心・安全をサポート



24時間、365日稼働しているコールセンター。オペレーターはすべて女性スタッフ

高齢化が進む中、いきいきと暮らせるまちを目指して

柏市は、東京都心から30km、千葉の北西部に位置する人口38万人の街で、Jリーグ柏レイソルのホームタウンです。駅前には、ストリートミュージシャンが集まるなど若者でにぎわう活気あふれる商業都市である一方、利根川や手賀沼などの自然環境にも恵まれた、都会の街並みと自然の豊かさが調和した魅力あふれる街です。

そんな柏市ですが、2015年には高齢化率が現在の16%から26%へと急速に増加するといわれています。こうした状況を踏まえ、同市では「高齢者いきいきプラン21」を掲げ、すべての高齢者が、その人らしく、住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちを目指しています。

高齢者に対する具体的なサービスには、介護保険制度によるもの以外に市独自のものとして「配食サービス」「寝具乾燥消毒サービス」「訪問理髪サービス」などを実施。また、民生児童委員との共催で「声かけ訪問」を行い、高齢者の実態把握に努めるとともに、報告を受けた地域包括支援センターの保健師らがケアの必要な高齢者宅を訪問し相談に応じるなど、高齢者の自立と自立支援を目標に予防型の福祉サービスを積極的に進めています。こうしたサービスの一つとして、安全センターによる緊急通報サービスが採用されています。



▲緊急通報装置。通報ボタンを押すだけで、受話器をとらずに安全センターと会話できる



◀ペンダント型送信機。柏市の場合ではないが、家の裏のけから落ちた人がこのペンダントを持っていて助けられた例がある

生命の安全を守ることはもちろん、心に触れ合うサービスが可能に

同市が当初導入した緊急通報システムは、緊急時のみに対応する消防方式。ところが、通報の約9割が緊急出動ではなく話相手を求める電話でした。しかも、消防署には看護師やヘルパーなどのスタッフがいないので対応できません。そこで、専門会社へ委託することを検討し、安全センターの緊急通報サービスを採用することにしました。

「看護師などの専門家スタッフによる健康指導ができるなど、高齢者の心と触れあうサービスができることで選定しました」（根本氏）

安全センターの緊急通報サービスは、緊急時や異常事態発生時の通報に、看護師や保健師などの女性スタッフが24時間365日、迅速かつ的確に対応するのが特徴です。利用者宅には、ボタンを押せばコールセンターと会話ができるペンダント型送信機と通報装置が設置されます。利用者からの通報が入ると安全センター

高齢者を見守る人のネットワーク形成をサポート

同市の緊急サポートシステムでは、緊急時の援助を行う協力員を民生児童委員に

のコンピュータ画面には、電話番号や緊急連絡先などのご利用者のプロフィールが瞬時に表示され、適切な対応が取れる仕組みが準備されています。いつでも気軽にボタンを押してもらえ、関係づくりのためにセンターからも月に一回以上「お元気コール」をかけ、健康チェックを通したコミュニケーションを図っています。2007年12月末現在の柏市でのご利用者数は高齢者が834人、障害者が14人です。

「利用者からの相談や連絡は年間で約1500件あり、孤独感や不安感を取り除くことにつながっています」（柿崎氏）

「緊急通報があった場合には随時、それ以外に関しては月次報告が提出されます。この月次報告は市民への報告にも活用し、高齢者福祉への理解を図っています」（森氏）

お願いしています。この民生児童委員の協力があるからこそ高齢者の安心と安全が見守られるのです。一方、民生児童委員は緊急通報サービスを高齢者に紹介すること、地域の高齢者との関係づくりのきっかけにしているそうです。そうしたことから、定例会などを利用して緊急通報サービスの勉強会も活発に行われています。

最後に今後の抱負や安全センターへ望むことなどをお聞きました。

「何よりも緊急時への対応が第一なので、特に夜間や休日での緊急発生時におけるサービスの一層の充実を望みます」（柿崎氏）

「さまざまな利用者がいるので、その人に合わせた臨機応変な対応をお願いします。非常に難しい要望ですが、安全センターならできると期待しています。」（森氏）

「市の担当者3人では到底できないサービスです。これからも高齢者の心の支えとして対応してほしいと考えています」（根本氏）

高齢者には親族、隣り近所、地域の3つの見守りが大切といわれています。柏市ではこれに緊急通報サービスを加え、4重の輪で高齢者を見守っています。

用語解説

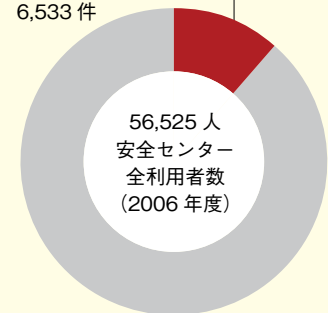
民生委員（民生児童委員）

地域住民からのさまざまな相談に応じ、各種制度の紹介や必要なサービスを利用するための支援を行いながら、行政などの機関と連携し、地域の実情に即した福祉活動を展開する役目を持つ。非常勤の特別職の地方公務員に該当する。

緊急通報サービス

緊急時や異常事態発生時にペンダント型送信機と通報装置で安全センターへダイレクトに通報。看護師、保健師をはじめとする女性スタッフが必要に応じて救急車を呼ぶなど素早かつ的確に対応します。

緊急通報による救助件数
11.6%
6,533件



柏市役所



所在地：千葉県柏市柏5-10-1
面積：114.90平方キロメートル
人口：386,050（2007年4月1日現在）
世帯数：148,168世帯
（2007年4月1日現在）

柏市役所
保健福祉部
高齢者支援課
専任副主幹
根本 秀行氏

保健福祉部
高齢者支援課
介護サービス担当リーダー
森 みゑ子氏

保健福祉部
高齢者支援課 主査
柿崎 祐一氏

2005年3月に沼南町と合併し、新しい柏市がスタート。2008年4月1日からは「中核市・柏」に。中核市になったことで県が行っていた事務の多くを市が直接行うことができるようになり、市民サービスが向上します。

ライフオートメーションが実現する世界

ライフオートメーションは、ビルオートメーション、アドバンスオートメーションに次ぐ山武グループ第3の柱として位置付けられている。ライフオートメーションが目指すのはどんな世界なのだろうか。



取材 / 構成 早川 寿浩

これまでとは違う
社会到来を前に

いま、日本は大きく変化している。その一つが人口構造の変化だ。少子高齢化が加速し、2055年には、国民の2・5人に1人が65歳以上の高齢者となる社会が到来するといわれている。また、私たちの生活に大きな変化をもたらしているグローバル化や情報化は今後もさらに加速していくだろう。時代に合わせて変わっていく法規制や進歩する技術についていけないのではないか、あふれる情報の中から正しい情報を取捨選択できないのではないか、という不安は、誰もが一度や二度は抱いたことがあるのではないだろうか。深刻化する環境問題と合わせ、私たちが経験したことのない社会がまさに訪れようとしている。このような社会では、生活者が求める安心、安全、快適さを実現することが大きな時代の要請となるはずだ。そうした要請に応えるために山武グループは、数年前からライフオートメーション（以下LA）事業に取り組んでいる。

いきいきとした暮らしを
さりげなく実現したい

山武グループはこれまで、建物分野においては、居住者に対して安全で快適な環境を提供してきた。ビルオーナーに対して快適な環境を極力少ないエネルギーで実現することで、ライフサイクルコストを低減し、地球環境にやさしい建物としての付加価値を高めている。また工場市場では、作業者の安全を確保し、安心して働ける場を提供するのももちろんのこと、生産性の向上や品質の安定など、経営問題に直結する課題の解決を実現する製品やサービスの提供を通じて、一貫して産業の発展に寄与してきている。これらはいずれも時代の要請であった。

これまで産業界に対して提供されてきたオートメーションの技術は、生活の場でも新たな価値の創出、人々の「いきいきとした暮らし」の実現に役立つのではないかと山武グループは考えている。LA事業は、こうしたビルディングオートメーション事業、アドバンスオートメーション事業に次ぐ第3の柱として位置付けられている、山武グループの新たなチャレンジ領域なのだ。

山武グループの目指すLAの世界は、すべてを「人を中心」に考えた、無の存在感といえるかもしれない。

azbilな暮らしはすべてそこにある未来

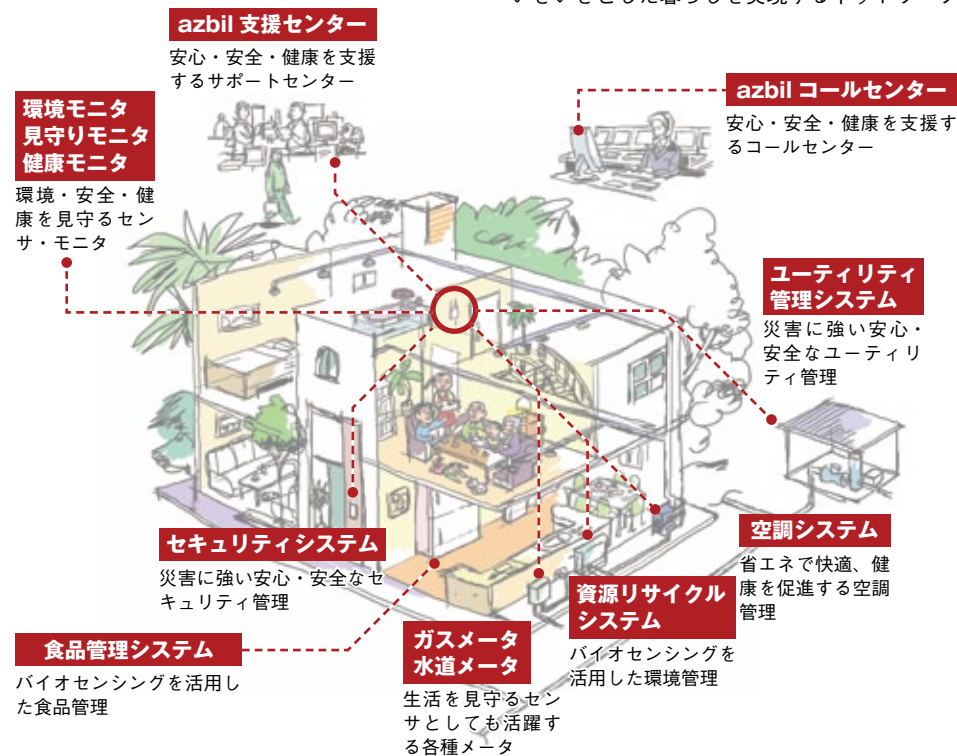
そんな「人を中心」とした将来

のLAの姿は、こんな風に描くことができる。

ガスや水の使用量はそれぞれの生活リズムを反映する。遠隔地から状態を見守れば、個々の生活スタイルやリズムを把握することが可能だ。そんな技術を用いてこんな生活を描いてみた。

azbil の目指す LA の世界

いきいきとした暮らしを実現するネットワーク



オートメーションの技術は常に生活に密着しているが、人はそれを意識せずに安心して暮らすことが出来る。いきいきとした暮らしのリズムが崩れたときにだけ、第三者の温かい手が差し伸べられる。このようなサポートを誰もが受けながら、安心していきいきと暮らせる世界をLAは目指している。azbilな暮らしはすぐそこにある未来だ。

——Aさんは一人暮らしの元気な高齢者。80歳を超えているが、朝の散歩を日課にしながら趣味の絵を自分のブログで紹介している。散歩から帰るとシャワーを浴びるはずなのに、ガスも水道もいつものような使用量をメータが示さない。見守りモニタをチェックしていたコールセンターのオペレータは速やかにAさんに連絡を取る。実はAさんは昨日から熱を出していたのだ。コールセンターの要請を受け、主治医と看護師がAさん宅を往診、さらには栄養士による温かい食事がAさんに提供された。翌日、いつものようにAさんは日課の朝の散歩に元気よくでかけた。

例えば、山武グループは、ガスの製造からその供給、さらに各家庭や事業所、工場などにおける消費をトータルでサポートしている。家庭用のガスメータは、一定以上の強度の揺れ（地震）を感じた場合、あるいは通常ではありえないガスの流れ方を感じた場合などには、自動的にその供給が止まるようになっていて、さらにその復旧も極めて簡単にできるような設計されている。日頃感じることはないが、オートメーションの技術が生活の中に入り込み、人々の安全を常に見守っている例であるといえよう。山武グループが目指しているLAの世界は、こうしたさりげなさの中に実現する暮らしの安全であり、安心であり、快適である。

例えば、家庭用の全館空調システムは、廊下や浴室、トイレなどを含めた家中のあらゆる場所の快適を、一年を通して実現すること、省エネルギーとなり、ランニングコストも低く抑えることができる。また独自の空気清浄や24時間換気を通じて、花粉やアレルギー源も削減できるため、快適だけでなく、知らず知らずのうちに健康をもサポートしている。

山武グループPR誌「azbil」を
ご愛読いただき、
ありがとうございます。

- 本誌に関するお問い合わせやご意見、ご希望、ご感想、取り上げてほしいテーマなど、皆さまからのお便りをお待ちしております。お名前、貴社名・部署名、ご住所、電話番号などをご記入の上、下記まで郵送、FAX、電子メールなどでお寄せください。
- ご住所などの変更に関するご連絡は、宛名ラベルに表示されております8桁の登録番号も併せてお知らせください。

■ お問い合わせ
〒100-6419
東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル
株式会社 山武 広報グループ
azbil 編集事務局
TEL: (03) 6810-1006
FAX: (03) 5220-7274
E-mail: azbil-pr@jp.yamatake.com

- 発行日: 2008年6月1日
- 発行: PR誌 azbil 編集事務局
- 発行責任者: 岡 訓仁
- 制作: 産業編集センター

編集後記

最近、原油高やサブプライムローン、バイオエタノールの影響で食料品から生活必需品までモノの価格が上がっています。そんな中で私たちは、つい安いものを買ってしまいがちです。自分が日々選択をして購入しているものが、どんな過程を経て出来上がっているかなど想像もしませんでした。その安易な選択が環境破壊に加担していたとは……。これからはちょっと高くても環境にいいものを！と思いますが実際にその時になったら、どちらを選択するか悩んでしまいそうです。(akubi)

**セキュリティファイダー株式会社
企業内ネットワークの
セキュリティソフトで
事業伸長、設立5周年**
株式会社 山武のグループ会社で、主に企業内ネットワークのセキュリティに関するソフトウェア開発・販売を行っているセキュリティファイダー株式会社は、設立5周年を迎えました。
内部統制支援や個人情報漏えい防止に対する意識の高まりからセキュリティファイダーが開発した「MSUAC™(ビジュアクト)™」(ファイアーサーバ専用アクセスログ収集システム)は世間の注目を集め、起業から3年で単年度黒字、4年で累積損失解消と順調に事業を伸ばしています。設立から5周年を迎えた現在、セキュリティファイダーが持つ「確かな技術力」と、BCDの山武グループが持つ「大きな安心感が相乗効果を生み出し、自動車・電機・IT・金融などのトップ企業や官公庁などにも多く導入されています。

※パケットキャプチャ方式
ファイアーサーバにソフトウェアをインストールすることなく、ファイアーサーバに流れるネットワークパケットのコピーを取得し、そのパケットからログを生成する方式
**藤沢テクノセンターが
第6回日本環境経営大賞で
「表彰委員会特別賞」を受賞**
株式会社 山武 藤沢テクノセンターは、第6回日本環境経営大賞(主催:日本環境経営大賞表彰委員会、三重県、後援:環境省、経済産業省など)で「表彰委員会特別賞」を受賞しました。
当社は、藤沢テクノセンターを「省エネモデル事業所」と位置づけ、身近なアイデアを駆使したユニークな省エネ対策から、先端技術を駆使した省エネ対策まで幅広く対策を行っており、エネルギーピーク時(1999年)から3年間で22.3%のエネルギー削減を達成しています。
今回の受賞は、「省エネ工場見学会」を継続開催し見学者が5000名を突破したことや、2006年

JPCA Show 2008
(マイクロエレクトロニクスショー)

会期	6/11(水)～6/13(金)
時間	10:00～17:00 (最終日は16:00まで)
会場	東京ビッグサイト
主催	日本電子回路工業会
入場料	1,000円 (事前登録者は無料)
出展製品	電子部品半自動挿入機「作造くん」シリーズ

展示会情報

11月に同センター内に省エネモデル建物として最新の環境技術を盛り込んだ新技術棟(第100建物)が竣工し、環境意識を醸成させたこと、新技術棟が建物総合環境性能評価システム(CaBEM)で最高のSランクを認定取得していることなどが高く評価されました。

第12回
機械要素技術展

会期	6/25(水)～6/27(金)
時間	10:00～18:00
会場	東京ビッグサイト
主催	リード エグジジションジャパン株式会社
入場料	5,000円 (事前登録者は入場無料)
出展製品	TRION オイルミストコレクター、安全スイッチ

第19回
設計・製造ソリューション展

会期	6/25(水)～6/27(金)
時間	10:00～18:00
会場	東京ビッグサイト
主催	リード エグジジション ジャパン株式会社
入場料	5,000円 (事前登録者は入場無料)
出展製品	テキストマイニングツール REXION PRO、データマイニングツールdataFOREST、ウェーブレット解析ツールTime2Wave、製造装置稼働率改善ツール Orchard Karte

第28回ビルセキュリティ
無料セミナー

会期	6/20(金)
時間	13:00～17:00
会場	株式会社 山武 ビルシステムカンパニー APプラザ東京
コース概要	入退室管理システム、非接触ICカード、電気錠、防犯機器についてなど、ビルセキュリティを構築する上で必要な基礎知識を習得することができます。
定員	20名 (定員になり次第締め切らせていただきます)

セミナー情報

株式会社 山武は、欧州をはじめとした海外で採用が進んでいるIEC防爆規格に適合した2点検出形リミットスイッチVCK-7000シリーズを販売開始しました。
スイッチ動作がセンターニュートラル形と同時動作形から選択できます。従来製品VCK-5000シリーズとの互換性を維持し、保守・メンテナンス時も簡単に交換できます。また、耐圧防爆構造の内蔵スイッチと安全増防爆容器(ハウジング)で、防爆性能Ex de IIC T6を達成しています。
【取得(予定) 防爆規格】
■ 新JIS 防爆
(産業安全技術協会: TIS)
■ 日本 取得済み
■ 欧州(EN) 防爆ATEX指令(CEMA)
■ 欧州 2008年5月取得予定



IEC防爆規格
(技術的基準)適合
リミットスイッチ
VCK-7000を
販売開始

製品情報

株式会社 山武商会は、最高で250℃までの高温エリアで設置検知が可能(ヘッド部のみ)なドイツTUCS社の高温対応型近接センサ「CQシリーズ」を販売開始しました。
検出距離は25ミリと40ミリの2機種でセンサヘッドとアンプ間にはアルミガード付きケーブルを採用しています。
【アプリケーション例】
■ 熱処理後のワーク検出
■ 熱間ミルのロール位置検出



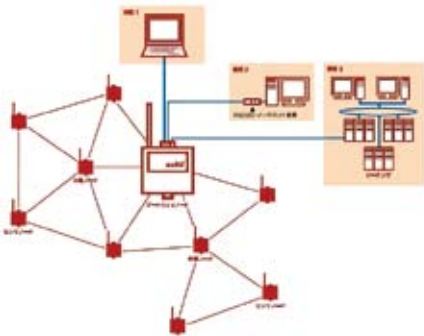
中国防爆(NEPS)
中国 2008年7月取得予定
IEC防爆(CEMA)
中国ロスキム参加国
2008年5月取得予定
**250℃対応の
「高温対応型近接センサ」を
販売開始**

株式会社 山武のフルメッシュ・ネットワーク・モニタリング・システムWiSensor™(ワイセンサ)は、無線技術の活用による効率的なデータ収集を実現したモニタリング・システムです。各種センサの出力を無線ノードに入力すること、その信号を無線に変換・発信し、データの収集を行います。設備の診断や省エネを目的とした仮設ネットワークに、WiSensor無線によるフレキシブルなネットワークを提供します。
【特長】
■ 汎用的な計装信号である4-20mAを入力信号に採用。さまざまなセンサと組合せた使用が可能です



■ 樹脂成形機の金型検知
■ 鋳造・鍛造工程近傍での使用

ニュース
**山武ケアネット
福祉用具城東センター開設**
山武グループの第三の柱である



■ フルメッシュ型ネットワークの採用で冗長化された通信経路を確保。データ通信の高信頼性を保有しています
■ 専用ツールによるリアルタイムネットワーク監視。各無線ノード間の通信状態をグラフィカルに表示、通信状態の確認が可能です
■ PC、またはPLCとの接続を実現。用途に応じたシステム構成を選択いただけます



● 山武ケアネット株式会社 福祉用具城東センター
● 〒132-0024 東京都江戸川区一之江4-6-14 第一スズキビル
● TEL (03) 5661-3660 FAX (03) 3656-7450

ライフオートメーションの中核を担う山武ケアネット株式会社は、居宅介護支援事業と並行して展開している福祉用具貸与・販売事業の城東地区(江戸川区・葛飾区・江東区・墨田区)販売力強化を目的に、東京都江戸川区に福祉用具城東センターを開設しました。
これまで城東地区の営業活動は福祉用具城南センター(東京都大田区)が担当しており、お客さまの急な要望に対応できない場合があります。福祉用具城東センターの開設に伴い高い専門知識を持つ福祉用具専門相談員を配置し、住み慣れたご自宅で快適な生活を送っていただくためにご要望にあった介護機器(レンタル・販売)のご紹介をさせていただくと共に、お客さまの急なご要望にも迅速に対応できるようにしました。

azbil
製品情報や展示会情報など、
azbilのトピックスをご紹介します
topics

問い合わせ先

A 株式会社 山武
アドバンスオートメーションカンパニー
メカニカルスイッチ事業推進部
マーケティンググループ
TEL 0463-84-2606
FAX 0463-81-3122

B 株式会社 山武商会
経営企画本部
TEL 03-3777-6941
FAX 03-3777-8077

C 株式会社 山武
アドバンスオートメーションカンパニー
マーケティング部
TEL 0466-52-7027
FAX 0466-20-2365

D 山武ケアネット株式会社
福祉用具城東センター
TEL 03-5661-3660
FAX 03-3656-7450

E セキュリティファイダー株式会社
営業部
TEL 0466-26-5666
FAX 0466-26-1130

F 株式会社 山武
経営企画部
広報グループ
TEL 03-6810-1006
FAX 03-5220-7274

G 株式会社 山武
アドバンスオートメーションカンパニー
マーケティング部販売促進グループ
TEL 0466-20-2160
FAX 0466-20-2103

H 株式会社 山武
ビルシステムカンパニー
セキュリティ本部
TEL 03-6810-1119
FAX 03-5796-0935

諸国名菜

次の世代に受け継いでいきたい
地域の伝統野菜



ひともじ

独特のぬめりが後を引く
風味豊かなネギ



ひともじのぐるぐる

全体をさっとゆでてから、白根の部分を3、4回折り曲げて芯にし、青い部分をぐるぐると巻き付ける。最後にキュッと握ると、中のぬめり成分が粘着して張り付く。酢みそと一緒に

ひともじとは、熊本市内で生産されている分葱^{わけき}の一種である。熊本の家庭では昔からネギの代わりとして、薬味やすき焼きなどに用いられてきた。

特徴は、甘味と香りの強さ。起伏に富んだ大地では寒暖の差が激しいため、特に甘く育つ。

ユニークな名前の由来は諸説ある。中国で使われていた「葱」という文字の和名を「き」と表すため「一文字」、^{ひともじ}「ひともじ」が「逆さ」にすると人の形に見えるから「人文字」などなど。いずれにしろ、江戸時代の肥後細川藩では、すでに郷土料理「ひともじのぐるぐる」が、酒の肴として楽しまれていたようだ。

「ひともじのぐるぐる」とは、ひともじを丸ごと一本使い、先端をぐるぐると巻き付けたシンプルな料理。ぬめりの強い中心部のやわらかさと、シャキシャキとした先端部の食感が同時に楽しめる。今でも市内の飲食店で食べられる。

しかし近年は、一年中安定して生産でき、見た目もきれいな万能ネギが市場を席巻し、万能ネギとひともじの区別がつかない子どもも増えているという。ひともじは、作付けしてから3カ月で一度収穫する。一部は出荷するが、一部は苗として再び植え替えることもあり、栽培に手間がかかる。農家では、肥料の改善など、安定した生産に向けて努力を続けている。

地元の食材を見直し、地産地消を進める全国的な動きの中で、熊本でも学校給食にひともじが使われるようになってきた。地元の子どもたちが、郷土の豊かさを再び知るようになるといい。

azbil

azbilは山武グループのシンボルマークです

- ☐ 山武 ☐ 山武商会 ☐ 山武コントロールプロダクト
- ☐ 山武エキスパートサービス ☐ 山武フレンドリー
- ☐ 山武ケアネット ☐ 安全センター
- ☐ 熊本安全センター ☐ セキュリティフライデー
- ☐ 原エンジニアリング ☐ 金門製作所 ☐ 太信
- ☐ ロイヤルコントロールズ ☐ テムテック研究所

販売店

azbil

6 June.2008

山武グループPR誌 azbil(アズビル)



本誌には、環境にやさしい大豆油インキと森林認証紙を使用しています。本誌からの無断転載・複製はご遠慮ください。